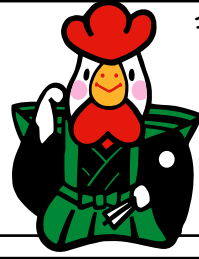


比内公民館だより

令和 5 年



ひな



3月号

館報のバックナンバーは市ホームページでご覧になれます。

そば打ち体験教室

「比内公民館でそば打ちをやってほしい」と、多くのかたから開催を望む声があったため、2年ぶりにそば打ち体験教室を行いました。1回目は2月11日、元田代公民館長の田村徳秋さんを講師に迎えて14人の参加。2回目は22日に当公民館係長の嶋田が講師を務め9人の参加者での開催となりました。年齢層は10代～80代と幅広く、そば打ちが初めての人もありましたが、講師にアドバイスをもらったり参加者同士で協力したり、皆さん楽しみながら体験している様子が印象的でした。「今度家でもやってみたい!」「また教室を開いてほしい!」など大変ご好評いただきました。



3年ぶりの開催

比内とりの市 大盛況!!

1月28日、29日の両日、比内グラウンドとすばーく比内で『比内とりの市』が開催されました。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりとなった冬の祭典には、市内外から約13,000人の来場者で大いに賑わいました。千羽焼きなど比内地鶏を中心としたメニューをはじめ、かやき鍋やきりたんぼ鍋など様々な料理に舌鼓を打ちました。また、ステージでは、「コケッコー」と鳴きまねの長さを競う人間比内鶏詠唱や、比内支援学校や鳳翔華によるよさこい演舞などたくさんの催し物があり会場は大盛り上がりでした。



大館の食と農を守るフードレンジャー



桂清水神社 巫女舞 ~西館小学校~



比内地鶏千羽焼き



子どもたちによる人間比内鶏詠唱



比内鶏感謝祭(神殿前)



かやき鍋

〔比内地区・歳時記〕

北国の人々は春が大好きです。空気の冷たさが体に凍みる寒中の雪かきを乗り越え、節分・立春そして小正月行事を迎えるごとに、眩しい春の訪れを心待ちにしています。

今年の豊作を期待し、雪解けと同時に始まる農作業が手際よく順調に開始できるよう願いを込めて、集落ごとに小正月行事が受け継がれてきました。

今回は大日神社の「お焚き上げ祭・御影祭」と、中野地区の「雪中田植え・梨っこ」の行事を紹介します。



〔御影祭(ミエマツリ)〕

旧暦の小正月行事として、大日神社に古来より伝わる行事です。昭和50年代までは旧1月16日の子丑の刻(午前1時)に本殿の扉を開き祈祷する、一年の始まりを告げる重要な行事でありました。

本来、年越しの行事は家庭ごとに年神様をお迎えし一年の安泰を祈願するもので、依り代として門松を飾り床の間に年神様をお祀りいたし、家族そろって年越しそばをすすり新年も無事に過ごせるように顔を会わせて誓うものでありました。近年、大晦日の午前零時に歳旦祭が実施するようになり参拝者も参列しますので、年明けを告げる行事が変化している状態となってしまいました。

お焚き上げを希望する神棚やお札類が最近では増加の傾向にあり、人口減少に伴う家仕舞いが進んでいるものと感じます。そこで、旧暦の小正月行事と古来の御影祭を合体させたものが現在のスタイルとなりました。旧暦1月15日夕刻、祈祷後に影灯に神火を移し、鳥居前に設置した五徳に点火、焼納します。

今年は風もなく穏やかな天候にも恵まれ火の勢いも勇壮で、始まると同時に月が正面から上り始めると更に厳肅さが増していました。



〔雪中田植え・梨っこ〕

2月11日、中野高齢者センター後ろの雪原で地域住民多数が見守る中で「雪中田植え」の行事が実施されました。「梨っこ」はセンター内で水木などに餅を飾り付け、果実や野菜の豊作を祈願しました。秋の実りを期待する「予祝行事」であります。

小正月は年神様を送り出し、飾られた正月料理などを整理しながら裏方で行事の準備に尽力している女性への休息をとらせるもので、別名「女正月」とも呼ばれます。暫し料理の手を休め栄養を取り冬期間に鈍る体調を整え、春を迎える準備に取り掛かる大切な行事です。年中行事の本来の意味合いが薄れていくのは、飽食の時代とされる現代となっては当たり前なのかもしれません。

先人たちの切実な「祈りの心」を忘れたくないものですね。

